令和6年第3回定例会報告 Vol.53 夏号

芦屋市議会議員

福井みな子 市政報告

6月定例会は6/5から6/28まで開催され、すべての市長提出議案は可決しました。また、新たな議会体制に向けて議会役員選挙（任期が2年の議長は除く）や各常任委員・議会運営委員の選任が行われ、私は総務常任委員会に所属することになりました。

第５次芦屋市総合計画（後期基本計画）策定方針が示されました

総合計画とは、市民と行政が共有するまちづくりの指針で、基本的な方向性や将来像が示されており、各種計画の中で最上位計画と位置づけられています。

第5次芦屋市総合計画は、前期基本計画（令和3～7年度）と、後期基本計画（令和8～12年度）からなります。このたび策定方針が示された後期基本計画は、昨年実施した市民アンケートの結果を参考に、現行計画の現在までの課題を洗い出し、社会状況の変化なども踏まえて検討されます。「市民と行政との対話によるまちづくり」に関しては、大学生を含む市民と協働し、市民の意見を取り入れながらまちづくりを推進していくことが示されています。

まちづくりの主役は市民です。市民が政策形成段階からまちづくりに参加することが重要であることから、この総合計画の周知に努めることを求めます。

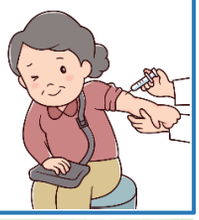
帯状疱疹ワクチン接種費の助成について

～兵庫県の帯状疱疹ワクチン接種助成制度創設に伴い、助成が始まります～

帯状疱疹は、子どもの頃にかかる水ぼうそうのウイルスが治癒後も体内に潜伏し、加齢や疲労、ストレスで免疫力が低下すると再び活性化する病気です。50歳代から発症率が高くなり、80歳までに約3人に1人が発症すると言われています。その痛みは、皮膚の症状が治った後も、帯状疱疹後神経痛として残る場合があります。

ワクチンの特性や副作用などについては適切な情報提供を行うよう、総務常任委員会にて要望しました。

＊支給対象：接種日現在で満50歳以上の方
＊助　成　額：1回限り4,000円（生ワクチンか不活化ワクチンのどちらか一人1回限り）
＊実施期間：令和6年8月1日～令和7年3月31日



歯の供養について

芦屋霊園入口の左手にある「歯の供養塚」には、抜けた歯や役目を終えた入れ歯などが納められています。「歯牙（しが）は本来肉体の一部であり、たとえ抜去された歯牙であっても、粗末に扱うことは許されない」との思いにより、毎年6月の「歯と口の健康週間」に合わせて、芦屋市歯科医師会による供養式（要予約）が行われます。

歯や口は、体全体の入り口。近年、歯科疾患と全身疾患は互いに影響すると言われています。健康な口腔状態を維持することは、健康に生きるための大切な心がけであると言えます。

能登半島地震 ボランティア活動に参加

4月中旬、「全国災害ボランティア支援機構」などの方々と共に、「国際ソロプチミスト六甲」の一員として珠洲市を訪れ、地震の爪痕が大きく残るなか、短期間ではありましたが瓦礫の撤去作業などを行い、被災者の方々より、お話を伺う機会も得られました。

この6月議会では、現地で見聞きしたことをもとに、防災対策の強化について一般質問を行いました。専門家によれば、能登半島地震は南海トラフ地震で想定される被害の縮図であるとのこと。地震への備えの重要性を再認識する機会となりました。

被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

【危険な暑さ対策】

本庁舎北館前ドライミスト稼働期間を延長

昨年は８月のみ稼働し、好評であった本庁舎北館前のドライミスト。東京の公園では７月から２か月間稼働の例もあるため、この夏の猛暑を想定し、昨年12月議会の一般質問にて「稼働期間の延長」を要望したところ、本年度は７月１日から８月30日までの稼働となりました。

福井みな子の一般質問（抜粋）

今回は、以下の2項目のほかに「デジタル地域通貨の導入」について取り上げています。

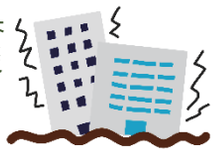
能登半島地震を踏まえた今後の災害対策について

質問① 芦屋市職員の被災地派遣等を通じて、どんな教訓を得、それを今後の防災・減災対策にどう活かすのか。

市長 能登半島地震の被災地派遣では、行政から市民の皆様への確実な情報伝達が不安解消につながるため、多様な広報媒体での周知が非常に大切であるという教訓を得た。防災行政無線・ホームページ・ひょうご防災ネット・SNS等様々な媒体を用いた周知の強化を平時より図る。

質問② 災害時におけるトイレ環境の整備及び自治体間の相互応援体制の更なる強化に向け、クラウドファンディングを活用した災害用トイレトレーラーの配備を求めるが見解を問う。

市長 水が供給されない発災直後においても、ある一定量の排泄を行える点は効果的である。ただ、導入するには維持費・災害派遣時の職員同行の課題があるため、先進市の事例を研究する。



私の考え

能登半島地震では耐震補強、避難所の環境改善、迅速な復旧支援、災害情報の伝達などの課題が浮き彫りになりました。これらを今後の防災・減災対策にどう活かすかが重要です。今回は、道路の寸断による孤立が顕在化する奥池地区での定期的なヘリコプターの離発着訓練を要望しました。

また、災害用トイレトレーラーについては、珠洲市においてその有用性を実感しました。災害時の自治体間での貸与のみならず、市内のイベント時や消防活動でもその有効性を最大限に引き出せると考えます。

珠洲市に設置されたトイレトレーラー。

旧防潮堤壁画について

＜旧防潮堤壁画について＞

松浜町から伊勢町に面する臨港線沿いの旧防潮堤には、約750メートルの区間に166枚の壁画（ウォールペインティング）が描かれていました。

これは1990年の市制施行50周年記念イベントにて、多くの市民が描いたものです。当初の計画では、2、3年毎にペインティングを行い、壁画を描き替えていく予定でしたが、実現には至らず、2010年の市制施行70周年には再度ウォール・ペインティングが検討されましたが、財政的な問題で見送られました。現在、塗料の退色と劣化が進んでおり、元の構図が判別しにくい作品も見受けられます。

質問① 市は現在の状況をどのように認識しているのか。

市長 事業実施より一定年数が経過しており、全体的に色が薄くなっていることは認識している。

質問② この壁画の存続に向けて、修復や復元の可能性を問う。

市長 現在のところ修復や復元をする考えはないが、今後課題が生じた場合等には、どのような対応が可能か考える。

私の考え

この壁画は、市民に長年、日常生活の中でアートを楽しむという大きな役割を果たしてきました。しかし、修復されることなく劣化が進行しており、美しい景観を誇る芦屋市においてこの状況を放置することが果たして適切であるのか、疑問に思います。「課題が生じた場合に対応が可能か考える」との答弁ですが、その具体的な課題とは何でしょうか。今こそ壁画の再活用について考える絶好の機会であり、市民の知恵を借りて費用を抑えた実現可能な方法を模索し、この文化ゾーンに新たな魅力を創出すべきです。こうした取り組みにより、芦屋市はさらに魅力的な地域として発展するでしょう。

メール fukui.minako@gmail.com ホームページ http://www.fukui-minako.com ブログ http://www.fukui-minako.com/activityreport/

〈Profile〉H23年 芦屋市議会議員初当選　H30年 市議会副議長　R元年 監査委員　R2年 総務常任委員長　R3年 総務常任委員長　R5年 4期目当選

Photo Report

鷹の放鳥（カラス対策）を見学

浜町防災学習会にて

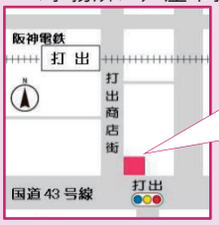
編集後記

異常高温が続くなか、樹木による木陰は体感温度を約6度下げる効果があると言われています。

昨年12月議会の一般質問で取り上げた「緑による癒しの空間の創出」を、今後も要望していきます。

福井 みな子

市政報告Vol.53 R6年7月発行
＜事務所＞芦屋市打出町1-13



事前にご連絡のうえ、お気軽にお越しください。

TEL＆FAX：34-0240